

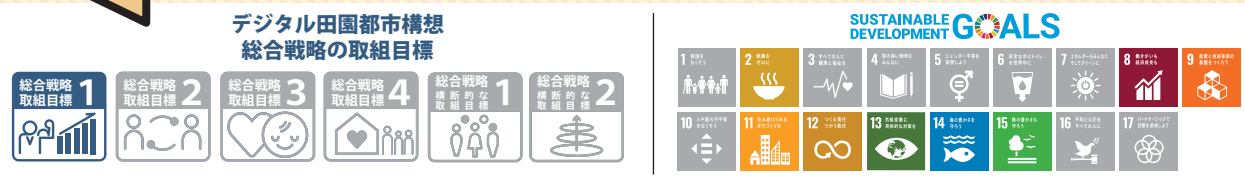
## 理念 Ⅱ 活力ある産業の振興

総力戦のまちづくり「奥出雲創生」  
つながりで築く 幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町



OKU  
IZUMO  
Plan for the future

- 基本目標 ⑥ 自然と共生した資源循環型産業があるまち
- 基本目標 ⑦ 奥出雲ブランドが輝くまち
- 基本目標 ⑧ 活力ある産業があるまち
- 基本目標 ⑨ 働きやすさ・働きがいがあるまち
- 基本目標 ⑩ 世界中に魅力が広がるまち



施策を取り巻く社会情勢

農村地域では、都市部以上に人口減少、高齢化が進み、担い手・後継者不足により農地の荒廃や生産基盤の脆弱化が進行しています。  
また、国際貿易交渉の進展により、安価な農林畜産物や加工品が輸入される一方、国内需要の縮小と消費者ニーズの多様化による産地間競争が激化し、農業・畜産業を取り巻く情勢は、厳しい状況にあります。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町はブランド米である「仁多米」が生産され、転作地や国営開発農地では、キャベツやほうれんそうなどの特産野菜のほか、そば、エゴマの振興を図っています。
- ◆畜産・酪農も重要な産業の一つであり、特に肉用牛は「奥出雲和牛」として全国的にも高い評価を得ています。令和2(2020)年10月には、地域団体商標として「奥出雲和牛」が登録され、さらなるブランド牛の生産体制を確立するためJAと協力しながら維持拡大を図っています。
- ◆農家は小規模経営が中心で、専業農家は少なく、農業従事者の高齢化と担い手不足を背景に、耕作放棄地や遊休農地が増加傾向にあります。また、基盤整備に係る負担金や流通経費の高騰、機械への過剰投資など、生産コストの低減が課題となっています。
- ◆今後は、農地の集積やスマート農業の活用、集落営農等の法人化、日本型直接支払制度等により、農地を守り、活かす取組を推進する必要があります。

10年後のめざす姿

町内産農産物・畜産品のさらなるブランド化を推進するとともに、スマート農業やコントラクターの利用等による効率化を高め「儲かる農業・畜産業」へ転換するまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認定農業者数	70件	75件	80件
主要農産品販売額 (JA取扱分)	97,113万円	100,000万円	102,000万円
繁殖和牛飼養戸数	135戸	133戸	130戸

関連計画

奥出雲町畜産クラスター計画	平成30年度～令和5年度
---------------	--------------

取組

(1) 農業の生産性向上と新技術の導入

これまでの農業では、生産者の経験と勤による栽培が行われてきました。今後は栽培データの集積と分析を進めマニュアル化し、栽培技術の向上と農作業の省力化を図ることで、「誰でも、どこでも」良質な農産物の生産を可能にし、担い手確保につながるスムーズな事業承継環境を整えます。また、農業の生産性向上や省力化に向けたスマート農業技術の導入や活用について支援を行い、持続可能な農業を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
先端技術導入経営体数	6経営体	10経営体	15経営体

(2) 農地の整備・維持・管理・保全

中山間地域等直接支払制度(5期)では、認定農業者の育成を図り、農用地の集積、農業経営の体制強化を進めるとともに、未協定集落の集落協定の締結を進め、農地の維持・管理を図ります。  
また、国営開発農地においても、個別協定の締結や後継者等への経営継承を図りながら、今後も認定農業者など担い手への農地の集積を促します。  
園芸振興については、施設野菜、花き、果樹等の生産振興を水田や開発地を中心に進めるとともに、新規就農者の受入育成や園芸振興作物の作付を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
中山間地域等直接支払事業協定農用地面積	1,982ha	1,960ha	1,940ha
圃場整備面積	1,942ha	1,948ha	1,948ha
国営農地活用面積 ※2022年度 194ha	220ha	205ha	215ha

(3) 奥出雲和牛等の生産基盤の維持拡大

(一社)町農業公社の繁殖育成牧場を活用し、優良雌子牛及び受精卵の畜産農家への供給や県外の優良系統牛の導入、優良雌子牛の地元保留を進め、優良牛の確保に努めるとともに、集落営農組織等へ畜産を取り入れ、新たな飼養体制を整えます。  
また、農家の高齢化や担い手不足が深刻化する中、コントラクター<sup>24</sup>の利用促進などにより、畜産農家の労働力軽減を図り、奥出雲和牛の産地の維持、飼養頭数の維持拡大に努めます。  
酪農振興については、生乳能力の高い乳用牛の導入を支援し、地域内の乳量確保を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
繁殖和牛飼養頭数	1,082頭	1,120頭	1,150頭
コントラクター利用件数	20件	22件	25件

(4) 耕畜連携による資源循環型農業の推進

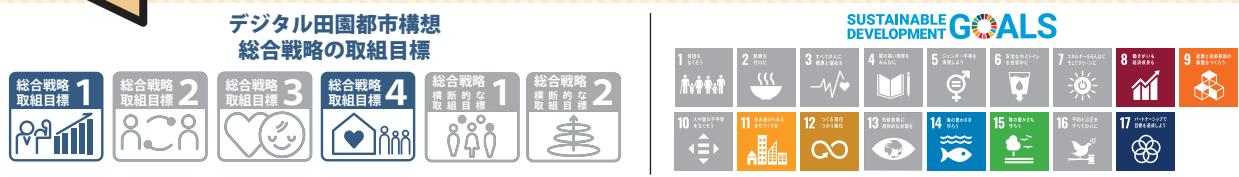
堆肥は、おいしい「仁多米」の生産や安心・安全な農産物の生産、農地の地力維持、向上に欠かすことのできない地域資源です。これからも、堆肥の需要に応えるため、仁多堆肥センターのストックヤードの充実を図り、供給体制を整えます。  
また、遊休農地等へ放牧の推進や粗飼料生産を促し、畜産農家の省力化と農地資源の保全を図り、担い手不足による耕作放棄地の解消に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
水田への堆肥供給面積	604.2ha	650.0ha	670.0ha
飼料作物作付け面積	119ha	120ha	121ha

<sup>24</sup> コントラクター：飼料作物の播種や収穫作業、堆肥の調製・運搬・散布作業などを請け負う組織。近年、畜産経営においては、飼養規模の拡大により、飼養管理に専念するため、自給飼料生産を外部(コントラクター)に委託する動きが加速。

みんなが協力できること

- 町民・地域
  - ◆地産地消で地元の食材に興味を持つ
  - ◆新規就農者や若い生産者を応援する
  - ◆町民一人ひとりが自らの農地を守る
- 企業・団体
  - ◆生産性と収益性の高い農産物を普及する
  - ◆「奥出雲和牛」を積極的にPRする
  - ◆先進的な農業技術を普及する



施策を取り巻く社会情勢

主に戦後の復興期に植林された本町の人工林の多くは主伐期を迎えています。近年の木材価格の低迷や林業従事者の減少等のため木材の出荷は低迷しています。

森林の経済的価値が下落したことで、山主の山林経営に対する関心も低下しており、不在村地主の増加もあって、管理の行き届かない森林が増加しつつあります。

民有林の管理手法として、平成31(2019)年4月から適正な管理が行われていない森林について、町が仲介役となり、意欲と能力のある林業事業体に経営管理を再委託する「新たな森林管理システム」による手法が加わりました。同時に、全国の自治体に対して「森林環境譲与税」の交付が始まっており、管理の行き届かない森林の保全が進むものと期待されています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆令和元(2019)年度の町内の林産出荷額は97百万であり、10年前の153百万、5年前の109百万に比べ、年々減少傾向にあります。
- ◆森林を管理する担い手不足が深刻で、林業従事者は10年前の68人から34人と、この10年間で半減しました。
- ◆林業の生産性を高めるためには、今後路網整備と施業地の団地化・集約化を行い、スマート林業を推進することが必要不可欠です。
- ◆豊富な地域資源である林産材を活用して舞茸やエリンギを菌床栽培しており、近年は売上を伸ばしています。

10年後のめざす姿

スマート林業の推進と森林環境譲与税の活用による林業の生産性が高く、健全な奥出雲の森林があり、特用林産<sup>25</sup>の栽培が盛んなまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
木材出荷量	6,500m <sup>3</sup>	7,000m <sup>3</sup>	7,500m <sup>3</sup>

関連計画

奥出雲町森林整備計画 平成30年度～令和9年度

取組

(1) 山林の保全・基盤整備と木材利用の促進

航空レーザ計測による森林資源解析を実施し、正確な森林資源量等を把握します。森林組合との連携のもと、スマート林業の素地を築き、将来的には供給者(川上)と需要者(川下)までの受発注や在庫、販売、物流等の情報管理を促し、林業サプライチェーン<sup>26</sup>の構築を目指します。

また、微細地形データを基に、県営林業専用道や林内作業道等の路網整備を進めるとともに、地籍調査事業による不在村地主の状況や林地境界の把握に努めます。また、将来的に施業の集約化・団地化を促進することで、林業低コスト化と山主還元率の向上を図るとともに、木材の安定供給により、優位な価格での販売促進を行い、木材価格の低迷から脱却を図るため、近隣市町との広域化の方向を模索します。

そのほか、高性能林業機械の導入補助や農林中金「森力事業」への支援等を行い、施業の効率化推進とスマート林業の受け手となる町内林業経営体(森林組合)育成を図るとともに、県が進める循環型林業(伐って・使って・植えて・育てる)を構築するため再造林を推奨し、森林災害が発生しにくい健全な森林づくりを進めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
路網敷設延長	1,466m	4,466m	9,466m
施業集約化団地数	0団地	1団地	2団地

(2) 山林の多面的利用

ミニキャンプやグランピング人気を捉え、既存森林レクリエーション施設の再整備や近隣施設と連携した取組を推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
玉峰山森林公園施設利用件数	230件	270件	300件

(3) 森林環境の保全・創造

間伐や主伐後の定植への指導を強化し、森林の公益的機能の維持に努めます。また、適正な管理が行われていない森林について町が仲介役となり、意欲と能力のある林業事業体に経営管理を再委託する新たな森林管理システムにより、管理の行き届かない森林の保全に努めるとともに、松くいやナラ枯れによる里山の景観破壊を防ぎます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
松くい・ナラ枯れ被害本数	1,276本	1,148本	1,033本

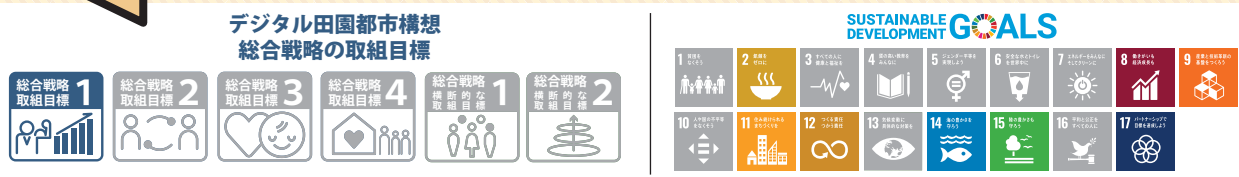


中学生による林業体験(子ども版きこりプロジェクト)

<sup>25</sup> 特用林産：山林から生産される産物のうち、木材を除くきのこ類や山菜類などのこと。  
<sup>26</sup> サプライチェーン：原材料や部品の調達から、製造・生産管理・販売・配送までの流れのこと。

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆森林所有者も含め、森林を適正に管理する
- 企業・団体 ◆特用林産を推進する  
◆小中学生対象の森林教室などによる後継者育成のためPR活動をする



施策を取り巻く社会情勢

経済のグローバル化に伴う、安価な農林畜産物や加工品の輸入量の増加、食に対する価値観やライフスタイルの変化、消費者ニーズの多様化や安心・安全に対する関心の高まりにより、産地間競争がより一層激しくなっています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆「仁多米」「奥出雲和牛」「そば」「舞茸」など、本町には全国に誇れる農林畜産物がたくさんあります。「仁多米」は、これまで米・食味分析鑑定コンクールにおいて金賞を10回受賞。「奥出雲和牛」は、一定のブランドを確立し、「そば」「舞茸」ともに、市場での評価は高いものがあります。
- ◆しかしながら、消費者ニーズの多様化などにより、産地間競争が激化しているため、より一層のブランド力向上を図る必要があります。
- ◆また、少子高齢化が進み、担い手不足が深刻化するなか、農林畜産物の品質の維持向上と生産量の維持拡大に努めなければなりません。

10年後のめざす姿

奥出雲ブランドを確立し、県内外でのさらなる認知度の向上と、他地域の農林畜産物と比較して有利な販売が実現され、「奥出雲」の地域イメージが確立したまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
ふるさと納税寄付額	35千万円	35千万円	35千万円

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 農畜産物のブランディング

本町の「仁多米」「奥出雲和牛」「そば」は、さらなるブランド価値を高めて、確固たる地位を築き、「エゴマ」「露地・施設野菜」「花き」「果樹」「豆類」などは、関係機関と協力した生産振興に努め、新たなブランドの確立を図ります。質の高い農林畜産物を活用した「食」の提供やPR、農商工連携や6次産業化を推進します。

また、新たな販売チャネル（ネット通販など）を利用した農林畜産物の販路開拓、農業遺産の認定を活かした情報発信とPR、イメージアップを図り、奥出雲ブランドの普及・浸透に取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
「たたら製鉄由来の資源循環型農業」ロゴマーク使用承認数	36件	66件	96件

(2) 奥出雲の強みを活かした特色ある生産と販売

地域に根差した資源循環型農業を推進し、「仁多米」はもとより町内で生産される農産物のブランド力強化を図り、地元産直市などを活用した地産地消の推進、「奥出雲ブランド」や「農業遺産認定」を活かした有利販売に努め、生産者の所得向上を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産直市販売額	16,540万円	16,800万円	17,000万円

(3) 林産物のブランド化

舞茸など特用林産物のブランド価値を高め、ネット販売や価格決定権を出荷者側が持つ値決め取引の増加等により、高値有利販売に向けた取組を支援します。また、県産材「しまねの木」の利用拡大に向け、県が進める「しまねの木活用工務店」のPRや、高品質・高付加価値木材製品の出荷割合を増やす取組を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町内製材所等出荷量	67㎡	74㎡	84㎡

(4) 地域資源や伝統技術を活かしたブランディング

たたらや算盤、木工芸品等、伝統産業から生み出される素材や製品を活用した、新たな製品、サービスづくりを支援します。また、日本農業遺産認定の知名度を活かし、デザインやストーリー性など付加価値の高い製品づくりを促進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
たたらブランド関連製品件数	27件	30件	33件
地域資源や伝統技術を活かした新たな商品・サービス数	—	5件	10件

(5) 安心・安全で売れる農産物の生産

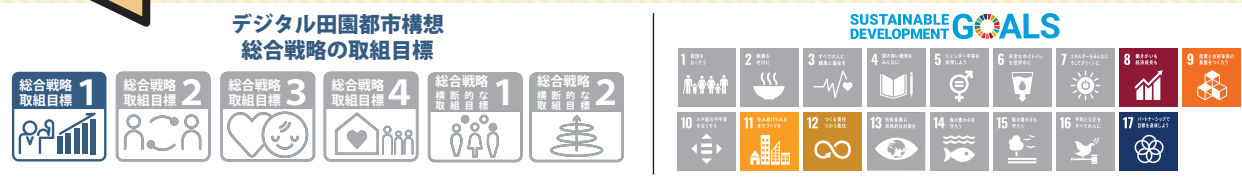
農産物の安心・安全を確保するため、「GAP：農業生産工程管理」の取組を推進します。

また、「仁多米」の特別栽培米（エコ米）及び減農薬、減化学肥料栽培を推進し、消費者が求める安心・安全で高品質な農産物の生産に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
環境保全型農業取組者数	59件	65件	70件

みんなが協力  
できること

- 町民・地域
  - ◆町内産の農林畜産物を町内外へアピールする
  - ◆地域の農業を盛り上げる
  - ◆奥出雲ブランドの商品購買に努める
- 企業・団体
  - ◆地域内産品の販売促進及び販路拡大を図る
  - ◆農林畜産物の新たな価値を創出する



施策を取り巻く社会情勢

リーマン・ショック以降、平成24(2012)年11月を谷として、全国的には景気が回復が続いているとされています。近年では、新興国の賃金上昇により国内回帰する製造業の動きや場所を選ばないリモートワークの働き方により、新しい形の企業誘致が進んでいます。

しかし、地方都市においては依然として厳しい状況が続いており、生産性の向上や起業・創業を推進し、民間活力を高めていくことが求められています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の商業においては、人口減少による需要の減少、近隣地域の大型店舗への購買客流出などにより販売額の減少が続いており、地域の商業を支える小規模事業者は減少しています。
- ◆製造業においては、金属製品製造業、食料品製造業、繊維工業などが主体ですが、その経営環境は人口減少、IT化や多様化する顧客ニーズへの対応などにより、一層厳しさを増しています。また、労働者の確保と育成は、少子高齢化などにより難しい状況が続いています。
- ◆今後、ますます労働者の確保が難しい状況が懸念されるなか、ICT技術を活用した新たな働き方を取り入れることで、多様な担い手を確保しながら事業活動を展開することが求められています。
- ◆平成27(2015)年度より起業創業支援に取り組み、令和元(2019)年度までに11件の起業・創業がありました。これら起業家の輩出により、地域経済の活性化と雇用機会の創出が図られています。

10年後のめざす姿

町内の中小企業・小規模事業者が事業活動を活発に展開し、町内全体の経済が好循環しているまち  
 新たな視点や価値観で起業・創業する事業者が輩出され、多種多様で魅力ある就業の場が確保されているまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
製造品出荷額	293億円	300億円	310億円
粗付加価値額	116億円	118億円	120億円
起業家数(延べ)	13件	18件	23件

関連計画

創業支援等事業計画 令和5年度～令和10年度

取組

(1) 商工事業者への経営支援

商工団体や金融機関と連携し、事業者の安定的・持続的な経営基盤の確保を支援します。また、商工会が策定する経営発達支援計画に基づく伴走型支援が円滑に推進されるよう支援し、経営改善をはじめオンライン販売や地域電子通貨の導入など、社会情勢に対応した取組を支援し持続可能な地域経済の確立を目指します。

事業承継においては、第三者承継なども含めた事業承継が円滑に進むよう、関連機関と連携して支援します。

また、企業の安定的・継続的な発展に必要な人材の確保や従業員のスキル向上などへの取組に対し、関係機関と連携して支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
支援補助金(地域商業等支援事業)の採択件数	1件	11件	22件
事業承継の支援件数(商工会支援による事業承継事業者数)	4件	24件	44件
地域電子通貨利用可能店舗	—	10件	35件

(2) 地域資源を活用した産業の創出

町内に豊富に賦存する農林産物をはじめとする地域資源を活用した新商品・サービスの開発、新分野への進出など、農商工連携や6次産業化などによる新たな産業の創出を支援します。また、第3セクターの活性化、見直しを進めます。

地域資源の活用以外においても、地域課題の解決につながる新たなビジネスの創出やICT技術を活かした新たな商品・サービスの開発を支援します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
産業創出関係補助事業の採択件数	2件	12件	22件

(3) 起業支援の促進

「起業創業支援施設古民家オフィスみらいと奥出雲」を拠点に、商工会や金融機関、しまね産業振興財団等の支援機関と連携し、起業希望者に対する相談対応や起業に必要なスキルや知識の習得支援、起業後のフォローなど、きめ細かい支援を行います。

また、継続的に起業家を輩出するため、セミナー等により起業への機運醸成を高める取組を進め、起業希望者の拡大を図りながら、地域課題を新たなビジネスチャンスとして捉える柔軟な取組を支援し、既存概念にとらわれない起業家の輩出を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
起業相談・支援件数(実人数)	23人	40人	50人

(4) 誘致企業の支援・新たな働き方の推進

誘致企業を支援し、後押しをすることにより、安定的な雇用の創出を図ります。ワークライフバランスの実現を図るため、ICT技術を活用したリモートワークなどの導入により、女性、若者、高齢者、障がい者など様々な人材がライフステージに応じた柔軟な働き方を選択でき、多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組む事業所を支援します。

また、こうした働き方を導入しやすい企業を誘致し、多様で魅力ある雇用の場の創出を図ります。

農業や林業など、町内に豊富に賦存する地域資源を活用した雇用の場の創出として、閑散期に他の仕事に従事する半農半X<sup>27</sup>など、新しい雇用機会が創出されるよう環境整備に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
町内でリモートワークに取り組む事業所数	3社	5社	10社
誘致企業訪問件数	8件	9件	10件
新たな企業誘致・立地計画認定件数(延べ)	0件	1件	2件

<sup>27</sup> 半農半X: 農業と他の仕事(X)を組み合わせた働き方。

みんなが協力できること

町民・地域

- ◆地元で買えるものは地元で買う
- ◆起業・創業に関する情報に関心を持つ

企業・団体

- ◆安定的・持続的な経営基盤の確保に努める
- ◆社会情勢に適応しながら、新たな事業展開・多様な働き方を推進する



施策を取り巻く社会情勢

生産年齢人口の減少により介護、運送業、建設業をはじめとする各種分野で労働力の確保が困難になるといわれています。

中山間地域においては、進学や就職とともに若者の流出が進んでおり、一次産業や建設業、製造業などの地域産業の後継者や医療・福祉・介護などの生活サービスの担い手となる人材を確保することが大きな課題となっています。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町の就業者総数は減少傾向にあり、各種産業従事者の高齢化や担い手不足が著しい状況です。
- ◆基幹産業である農業では、経営基盤が小規模で、兼業農家が多く、また、従事者の高齢化と担い手不足により、耕作放棄地や遊休農地の増加が懸念されます。農地の集積やスマート農業の活用等による経営の改善とともに、営農組織の法人化や中心的経営体などの育成を進めることで、安定した農業経営ができる担い手を確保することが急務となっています。
- ◆林業の就業者は、10年前の68人から34人と半減し、森林整備に対する担い手が確保できていない状況であり、林業の経営基盤を強化するとともに、労働条件や就労環境の改善を進めることにより、新規就業者を確保していくことが求められています。
- ◆町内誘致企業においては、新規学卒者やUターン者の地元雇用の受け皿となっている反面、開発系エンジニアの確保が課題となっており、専門性の高いエンジニアの確保支援が求められています。
- ◆医療・福祉・介護などの生活サービスや建設業などの社会インフラの維持管理に不可欠な業種においても、担い手が不足しています。

10年後のめざす姿

農業・林業をはじめとする地域産業の経営基盤が強化され地域経済を支えるとともに、地域貢献の志とチャレンジ精神を持つ若い人材が地域産業を支えるまち

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
人口一人当たりの町民所得	2,278千円	2,400千円	2,500千円
就業者のうち25～40歳の就業者の占める割合	19.1%	25%	30%

関連計画

—	—
---	---

取組

(1) 地域産業の担い手育成・確保、町内就職の推進

若年層には、企業見学や企業紹介チラシなどにより、町内企業への理解を深める機会を設け、「奥出雲で就職する」ことが一つの選択肢となるよう各種情報を提供していきます。

また、無料職業紹介所やハローワーク雲南をはじめとした関係機関により、求人求職情報を提供し、Uターン就職や若い世代の回帰など定住の促進を図ります。

地域資源を活用した小さなチャレンジを応援するため、地域で起業又は第二創業・副業を支援するとともに、新たな活動にチャレンジする人材の掘り起こしの場として、人材育成を目的としたチャレンジスクールや起業セミナーを開催します。

教育現場での地域医療教育、医療職場体験等の支援を継続するとともに、将来、地域貢献するの意志を持って進学する地域枠推薦制度を利用した医師及び看護師の確保を目指します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
新入研修会参加事業所数	3事業所	5事業所	7事業所
横田高校生の管内就職率	63%	70%	70%

(2) 営農組織の強化と担い手の育成

営農組織の法人化に向けた集落内アンケートや経営相談、事業継承支援による担い手対策を法人化推進チーム(県農業普及部、JAしまね、県農業振興公社)や島根県農業経営・就農支援センターと連携を図って推進します。

また、中心的経営体(人・農地プランで位置付ける地域の担い手)に対する農地中間管理機構による農地利用集積を進め、経営基盤の強化を図り、遊休農地・荒廃農地の発生防止に努めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
認定農業者数(農業経営改善計画の認定を受けた者)	70人	75人	80人

(3) 林業の担い手と就業者の確保

木の駅事業「オロチの深山きこりプロジェクト」と連携して各種技術講習会を実施し、自伐林家育成を目指します。島根県農林大学校への進学生募集活動に協力し、将来的に町内の林業経営への就業者の増加を目指します。

また、Uターン者の受け入れを想定した新制度づくりに取り組みます。島根県林業魅力向上プログラム(県単独事業)を活用した林業経営体強化施策を支援し、林業従事者の増加を目指します。こども版きこりプロジェクトを実施し、子どもたちの林業への理解と関心を深めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
オロチの深山きこりプロジェクト会員数	64人	78人	83人
森林組合林業従事者数	30人	32人	35人

(4) 人材不足業種への人材確保支援

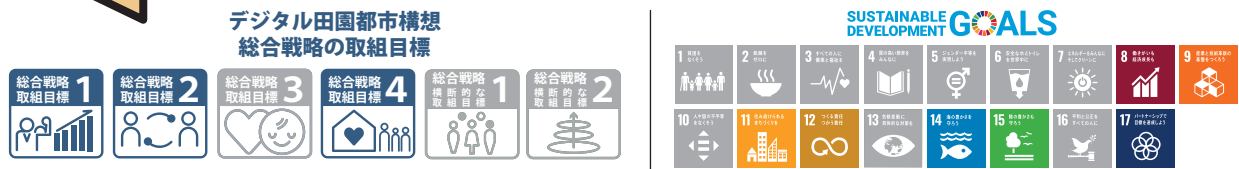
都市部で開催されるUターン相談会などに積極的に参加し、地域の求人情報を相談者に届けるとともに、無料職業紹介所において、企業の求人情報を掘り起こし、求職者に届けるなど、マッチング支援に継続して取り組みます。

また、地域の人材不足に対応するため、特定職種緊急人材確保事業により、医療・介護職、建設業職の人材を確保するとともに、事業者が協同して雇用し、人材をシェアする仕組みづくりにも取り組みます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
無料職業紹介所求人求職マッチング件数	8件	33件	58件
特定職種緊急人材確保事業累計交付者数(延べ)(医療・介護職人材)	15人	30人	45人
特定職種緊急人材確保事業累計交付者数(延べ)(建設業職人材)	—	6人	16人

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆地域の産業や企業を応援する ◆奥出雲町で働く
- 企業・団体 ◆産業の担い手を育成する



施策を取り巻く社会情勢

観光を取り巻く環境は本格的な人口減少社会の到来、旅行形態の多様化、インバウンド需要の増加などにより著しく変化し、観光立国推進基本法の施行、観光立国推進基本計画の策定、観光庁の設置など国を挙げての体制整備が行われています。また、全国各所でDMO<sup>28</sup>による地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する観光地域づくりが始まっています。地方都市においても、観光振興による交流人口増加を通じた高い経済波及効果によって、人口減少で生じる影響の緩和が期待できます。

奥出雲町の状況 (現状と課題)

- ◆本町には、たたら製鉄に関する資源や、温泉、自然景勝地等の観光資源が存在し、年間80万人を超える観光入込客があります。
- ◆中国横断自動車道尾道松江線の全線開通により山陰地方へのアクセスが向上し、山陽方面から多くの集客が見込めることから、地域資源を活かした観光商品の開発や情報発信によって認知度を向上させることが必要です。
- ◆平成30(2018)年度に観光協会を法人化し、本町の地域資源を活かした新たな観光商品開発や情報発信を行っています。旅行形態は多様化しており、観光客が高い満足度を感じることができるよう、地域資源の魅力付けや町全体のおもてなし力の向上が必要です。
- ◆ホッケー、サイクリング、ボート競技など、本町が有するスポーツ環境を活かし、国内外のスポーツ合宿誘致や、スポーツツーリズムを通じた交流人口の拡大と関連産業の振興を図ることが必要です。

10年後のめざす姿

たたら製鉄や自然景勝地などの観光資源を活かした、魅力ある観光サービスを充実させるとともに、近隣自治体との広域連携や情報発信を強化し、選ばれる観光地

まちづくりの目標

KGI (Key Goal Indicator/重要目標達成指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
観光入込客延べ数	873,482人	880,000人	900,000人
宿泊客延べ数	32,710人	33,800人	35,000人
外国人宿泊客延べ数	11人	45人	100人

関連計画

奥出雲町観光振興計画 平成29年度～令和3年度

取組

(1) 観光情報発信・プロモーションの強化

パンフレットなどの紙媒体のほか、ホームページ、SNS、メディアを活用した情報発信を行います。奥出雲町観光協会を中心とした質の高い情報発信及びプロモーションの強化を行い、誘客を図る客層を意識しながら、効果的な情報発信を展開し、観光地の認知度を高めます。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
奥出雲町公式観光ガイド閲覧数	685,245 PV	740,000 PV	800,000 PV
観光協会SNSフォロワー数	3,615人	8,300人	13,300人

(2) 観光資源の魅力化

たたら製鉄、美肌温泉、神話、自然景勝地、歴史、文化、農林業、食などの地域資源を活かした滞在型・体験型の観光商品の充実を図ります。さらに、魅力ある観光スポットの景観整備に取り組むとともに、県と連携した「美肌県しまね」をキーワードにした観光地づくり、イメージ定着を重点的に推進します。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
観光商品数 (体験プラン・ツアー)	16件	24件	30件
観光施設整備件数 (延べ) (リニューアル含む)	—	4件	6件

また、旅行事業者、関係機関と連携して地域資源の魅力をお届ける旅行商品の造成に取り組めます。雲南圏域、木次線沿線地域、比婆道後帝釈国定公園圏域など、広域的な連携による観光を推進します。

(3) 受入れ体制の充実

日本遺産及び日本農業遺産登録をシンボルとして、農泊及び農林業体験事業者の育成・支援を行い、受け入れの充実に努めます。地域資源の魅力伝える観光ガイドや町内観光関連事業者のおもてなし力の向上を図り、快適な観光を実現させます。また、観光協会の体制強化や二次交通等、各種サービスの充実により誘客強化を行います。訪日外国人客の受入れ体制の構築に向け、インバウンドへの理解促進を図ります。

KPI (Key Performance Indicator/重要業績評価指標)	基準値 2020年度	目標値	
		2025年度	2030年度
農泊及び農林業体験事業者数	6団体	10団体	15団体
観光事業者向けスキルアップセミナー開催数/年	3回	6回	6回

ハード面においては、安心して利用できる施設管理を行い、観光地の通信環境やトイレ環境の改善、観光・宿泊施設の老朽化対策を計画的に推進します。地域資源を活用した新たな集客施設を整備することで、新規客を獲得し、観光交流を促進させます。



田植え体験

<sup>28</sup> DMO: Destination Management Organizationの略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。

みんなが協力できること

- 町民・地域 ◆心温かいおもてなしの気持ちで観光客を迎える ◆観光資源への理解を深め、魅力を伝える
- 企業・団体 ◆観光客の呼び込み、受け入れ環境づくりに取り組む ◆行政や観光協会と連携して観光関連商品の開発に努める